



苗木の生長に思いを込めて

9月14日（土）、雷別地区自然再生事業地笹地11（標茶町雷別国有林）で、「企業との協働による広葉樹の森林づくり」を実施しました。

これは、札幌市に支店をおく企業が、これまで主に道央で実施してきた社会貢献活動について、雷別地区自然再生事業地で、当センターと協働した自然再生の取り組みで、今年度で3回目となります。

当日は35名を超える参加があり、笹地11にハルニレ・ヤチダモ・ミズナラ（計200本）の植樹と併せて、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシールド）で被覆しました。

まず始めに、開会式を行った後、当センター職員から作業に当たって



▽植樹する様子



▽保護管を被覆する様子



▽参加者の集合写真

の注意事項の説明と植樹指導を行いました。

その後、数班で植樹を始めたところ、参加者は苗木を受取ると足早に作業箇所へ向かい、手際良く植樹が行われ、用意した苗木はあっという間に植え終わりました。

休憩後は、保護管の組立てや被覆等を行い、参加者の見事な連携で、これらの作業もあっという間に終わり、当初予定していたスケジュールより早く閉会となりました。

参加者からは、昨年植栽した苗木の生長を目の当たりにして「10年・20年後の苗木の生長が楽しみです。」や「1年でこんなに大きくなるのですね。」また、「来年もここに木を植えたい。」等の感想がありました。

広大なカラマツ林に感動！

9月13日（金）、京都大学、北海道大学及び琉球大学の学生が、厚岸町と標茶町に広がるパイロットフォレスト国有林を見学しました。

これは京都大学と北海道大学が、北海道研究林標茶区（京都大学）及び厚岸臨海実験所（北海道大学）を拠点として、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、そして、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象として、森林植生・水生生物・土壌・堆積物等に係る実習を行っており、その一環として訪れたものです。



▽質問する様子

子どもたちの個性がキラリ
 9月7・8日(土・日)の2日間、
 白糠町のハミングロードで、第27回
 「しらぬかカミングパラダイス」が

造林地を眺望しました。当日は、双
 眼鏡をのぞいている学生から「国後
 島が見えた!」という声があがる程
 の視界良好の秋晴れで、学生の皆さ
 んは望楼から眺望する、広大な森林
 の風景に感動している様子で「また、
 見に来たいです。」等の声もありま
 した。



▽望楼から眺望する様子



▽機械庫を見学する様子

まず始めに研
 修棟で、当セン
 ターの活動内容
 を説明した後、
 パイロットフォ
 レスト造成時の
 様子を記録した
 DVDを学生の
 皆さんに視聴し
 てもらったとこ
 ろ、造成に係る
 様々な質問があ
 りました。
 機械庫を見学
 した後、望楼へ
 移動しカラマツ



▽会場の様子

開催されました。
 このイベントは、駅前南通り商
 店街の通りを開放して行われるもの
 で、地元住民による露天やフリーマ
 ーケット、スマートボール等の懐か
 しい遊びのコーナーさらに、今年で
 100周年を迎える郷土芸能「駒踊り」
 の披露等、多様な催しがありました。
 当センターは、白糠町緑化推進委
 員会の木育の取組みと連携し、8日
 (日)にマツボックリや輪切り、ア
 イスの棒等で、木工クラフトづく
 りを行いました。
 子どもたちに、思い思いの作品を



▽木工クラフト作りの様子

作ってもらったところ、出来上がった
 作品は、端材を沢山使った大きな
 作品や木の輪切りにかわいらしい顔
 を描いた作品等、子どもたちの個性
 がキラリと光る作品が沢山ありまし
 た。また、羊を作る子どももいて、
 身近に羊牧場がある白糠町らしさを
 感じられる作品もありました。
 当日は時折、霧雨の降るあいにく
 の天気でしたが、親子が一緒に木工
 クラフトに取組む姿も見られる等、
 当センターのブースに訪れた皆さん
 の笑顔が印象に残る一日となりました。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、企業、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。